

豫定通り今朝木崎出發致候、一日の宿料十八錢、十年前でもこんなとは無之候、あまりに氣の毒ゆへ餘分にとらせ候ところされてはならぬと押問答いたし候、以て其待遇の如何設備の如何御諒察ありたく候、途中大町百瀬氏宅に立より、午後馬車にて明科に着、久し振にて風呂にも入り、美味の夕飯にもありつき申候、今宵の夢も快ふからんと存居候(二十日夜、明科館にて)

今朝八時明科出發、十二時當地に着鶴屋と申に投宿致候、途中より雨と相成、諏訪の湖は水白みて荒寥を極め申候、遠足にや、小學女生徒の一群上諏訪に下車せしが、この寒雨を衝いて何處にゆかんとはする、いたくな降りそと私は彼等の爲めに天に祈り申候

山々は霧に包まれて其雄姿を見る能はず候(三十一日甲州日の春にて)

かへりば二十四日か五日かいまはわかりませんが、そして夜の十時すぎになりませう

このへんのやまには、きのこがたくさんはへておますあかい柿もほうくになつておます(二十二日)

快晴となつたから、七里岩の方へ往つて笛吹川を隔て、富士も駒も、鳳凰も寫しました、氣候は信州よりも暖かです、

宿は愉快ならず、名物鯉料理さつぱり感心せず、風呂もなし、夜に入ると酒客襲來、深更迄喧囂しておます、明日山の寫生を終

り二十四日には歸りたく候(二十二日夜)

雨なりしも出發と定めました、笹子大月間まだ汽車不通、道なき處を三里は苦しいが、水害の痕を見るのも何かの参考にもなるべく、再び信州へ廻るのも厭なれば中央線を選びました、笹子トンネルの東の出口で汽車から下され、晝食は生の玉子三つ、雨中所謂假國道とよばれる、川原の中を、重い荷を擔いで徒歩を續けました、途中の慘狀は新聞紙にある通り、殆ど九十度の角をなせる絶壁の下を通り、水を涉り、泥濘に苦しみ、漸く四時頃此處迄漕ぎつけました、停車場の遠いにはほと／＼閉口この邊コスモスの花今を盛りに開いておます、吾家の庭もさぞ美しからんと思へば明日の朝起きた時が楽しみです

(二十四日夕、大月停車場にて)

みどり洋畫會を見る

アマユアとして非常な熱心家、北山氏等の經營にかゝるみどり洋畫會では、その第二回の展覽會を、上野の竹の台陳列館で開いた。會員の出品約三百點、參考品としては諸大家の作が十數點出てゐる。一巡した處、會員の作では淺枝氏のによいものがある。點數は多いが、何れも小さなものばかりで、會場に負けて見るから物淋しい、そして公衆に見せるのは少しく早過はせぬか、寧ろ會員間丈けて展覽して、先輩の批評でも聞いた方が會の爲によいやうである。(T、O、生)